

紅葉の栗駒山

2018.10.8（月祝）

平子 渡辺（恵） 斎藤（富） 柏村 他7名

深田久弥が「栗駒山も百名山に入れるべきだったかもしれない」と言ったそうですが「日本一の紅葉」と称されている景色は素晴らしいものでした。

登りは、いわかがみ平から東栗駒コース。最初は所々ロープや梯子がある大きな岩が多いえぐられた道を登ると、今度は新湯沢の徒渉へ。せせらぎの音がさわやかで癒されますが、沢の中の石を選び濡れないように、落ちないようにと注意して歩きます。

東栗駒山で記念撮影し、裏掛けコースへと。紅葉は見ごろ、ハイマツの緑と赤や黄色のコントラストが美しく何度も振り返り、見上げては同じような写真を何枚も撮ってしまいました。ヘリコプターが二機、ずっと低空で飛んでいるのは紅葉の取材でしょうか？



さすがは連休の最終日、頂上までの階段の道は登りと下りの人たちが交互にすれ違うので大渋滞。でもその間たっぷり紅葉の景色を眺められました。

頂上も大混雑。集合写真を撮り少し奥に入った道の脇で昼食。あいにくガスがかかってきてしまって周りの山が見えたり見えなかったり。。近くで旋回していくヘリコプターに手を振りました。

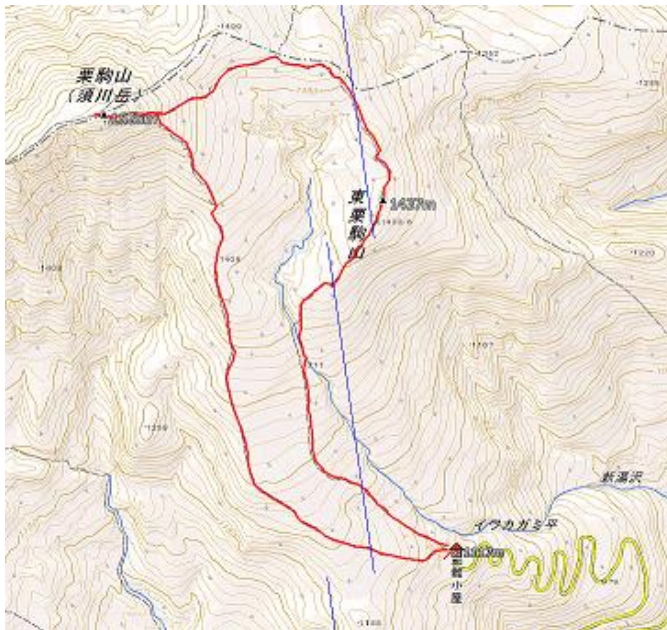
下りは中央コース。コンクリートで固められた玉石の道は歩きやすいのか？スニーカーで登ってくる軽装の人達とすれ違います。登山靴にはガツンと響いて「ふかふかの登山道の方が良いな。」と思ってしまいました。

飽きもせず紅葉を楽しみ写真を撮りながら、「もう着いちゃう？もっとここに居たい。」と思いながらも、いわかがみ平へ無事下山しました。

駐車場には長〜い行列が出来ていて「え〜！？何の行列？」と思ったら、下の駐車場へのシャトルバス待ちの列でした。

コースタイム

9：20 いわかがみ平出発→10：40 東栗駒山→11：50～12：20 栗駒山山頂→
12：20 下山開始中央コース→13：30 いわかがみ平に下山



(文責 柏村貴子)

日立アルプス縦走

2019年1月5日(土) 太

2018年末の日立アルプス北1/3縦走で下見したので、改めて全ルート縦走に挑戦。

数年前の挑戦では電車で車に戻る以外すべて徒歩だったが、今回はバスなども使う分、石尊山まで足を延ばすつもりだった。

しかし、途中すれ違ったハイカーに何うと、石尊山への道は通れるかどうか分からないとのこと、また久しぶりに長い歩きで靴擦れをおこしたことなどから、石尊山へのルートは途中で断念した。

全体的には、天候に恵まれ風もなく快適だったうえ、高鈴山では石城山岳会の菊池さん一行と出会い、孤独なソロ山行が神峰山までは4人パーティーの楽しい山行となった。

コースタイム

6:40 風神山自然公園駐車場 → 6:45 風神山 (風神の碑・三角点) → 7:05 金沢団地分岐
 → 7:30 林道出合い (林道歩き) → 7:30 真弓神社分岐 → 7:45 真弓神社 (真弓山)
 → 8:05 林道別れ → 8:25 中丸分岐・亀作林道分岐 → 8:40 高貫林道分岐 → 8:45 高貫分岐
 → 8:50 林道出合い (林道歩き) → 9:30 ゴルフ場出合い (日立高鈴ゴルフ倶楽部場内道路歩き)
 → 9:40 ゴルフ場別れ → 10:05 春友トレイル分岐 → 11:20 高鈴山山頂 (三角点・天測点)
 → 玉簾の滝分岐 → 11:55 賀毗礼の峰 (御岩山) → 12:15 向陽台分岐 → 日鉱記念館分岐
 → 奥日立きららの里分岐 → 12:50 神峰山山頂 → 13:50 羽黒山山頂 → 石尊山分岐
 → 小木津山自然公園分岐 → 14:30 蛇塚 (大煙突展望台分岐) → ヒサカキのトンネル
 → 15:15 ハイキングコース入口バス停 (鞍掛山北側駐車場)

(文責: 太)



日立アルプス北1/3縦走

2018年12月23日(日) 秋葉、志尾崎、芳賀、太、山縣、二瓶

平成最後の天皇誕生日、日立アルプス縦走のイトコドリ、目指すは五山縦走(一部ピストン)、御岩山(492m) 高鈴山(623m) 神峰山(598m) 羽黒山(491m) 倉掛山(248m)の制覇。

メンバー6名が車1台で午前7時にいわき市常磐を出発。午前8時前に御岩神社の駐車場に到着。

御岩神社の清々しい境内を通り、御岩山・賀毗礼の峰に向けて登山開始、表参道を登って峰、縦走コースに取り付く。御岩山の賀毗礼の峰からは里見方向、那須連峰が見える。

高鈴山に山頂には巨大な気象レーダータワー。このタワーは茨城県内の主な山から視認でき、茨城低山ハイクのランドマーク。山頂標柱のほか三角点に天測点、展望デッキやトイレもある。太平洋や県北の山々を眺めて休憩の後、御岩山、神峰山方向に折り返す。

神峰山の山頂(神社・測候所跡)に着くと、日立のシンボル大煙突を眼下に、常磐道、日立駅周辺など市街地の向こうに太平洋が見える、よい眺め。昼食とともに山縣さんがその場でデコレーションしてくれたケーキをいただく。しばし休憩後、神峰山四等三角点を經由して下り羽黒山を目指す。

羽黒山山頂には三角点と山名板はあるが木々に阻まれ視界は開けない。錆びた鉄塔の残骸が寂しい。

巻き道を選びながら下っていき、蛇塚付近から一度大煙突展望台に登る。メンバーは煙突が見えるだけだったことに少し残念そう。ルートに戻って少し行くと、両側の大きなヒサカキで覆われた緑のトンネルがあった。珍しく感じたか、こちらは少し気に入ってもらえたようだ。

埋立処分場フェンス脇を通過して急な階段を下りると、バス停のある舗装路に出会う。横断して駐車場脇の急な階段を上り、最後の山、鞍掛山を目指す。頂上にはテレビ塔のほか標柱と三角点。市街地が真下に広がり、振り返れば高鈴山のタワーが遠くに見える。あの場所からここまで歩いてきたかと感慨深い。下って舗装路に再合流するとかみね公園は近い。舗装路を歩いて最終目的地、市民プール脇に到着。

登山口の車を回収し、ホリゾンかみねで入浴した後、午後5時前いわき市常磐に戻った。

コースタイム

8:00 御岩神社駐車場→御岩神社分岐→9:00 御岩山（賀毗礼の峰）→玉簾の滝分岐
→9:40 高鈴山→玉簾の滝分岐→御岩山→御岩神社分岐→10:30 向陽台分岐→日鉱記念館分岐
→きららの里分岐→11:10 神峰山→11:45 神峰山三角点→12:30 羽黒山
→小木津山自然公園分岐→蛇塚→13:00 大煙突展望台→13:20 ヒサカキのトンネル
→ハイキングコース入口バス停（鞍掛山北側駐車場）→14:20 鞍掛山→14:40 ホリゾンかみね

（文責：太）



『初バックカントリースキー曽根太郎！』

石城山岳会 曽根太郎スキー組

1月6日、十数年ぶりにスキーを履き猪苗代スキー場で初滑り。秋葉さんにバックカントリースキー操作の基礎練習をたっぷり受けました。

当日は、シールの貼り方を下山田さんに教わりいざ出発“
先頭の秋葉さんのトレース後を踏みながら、高曽根山の尾根に取り付きました。秋葉さんに続き、あれ？自分だけ登れない？秋葉さんの登り方を見ると凸斜面を上手く使いシールを効かせて登っていました。自分の板は、多少ですが凹斜面に乗せていてシールが使えてなかった様です。同じように斜面を使うと、あら簡単！登れる。とても不思議な感覚でした。先頭をみんなで交代しながらのラッセル訓練もしました。



冬限定、曽根太郎の大木は、見事な姿を見せてくれました。
こんな雪深い所に枝を広げ大したものだよ、曽根太郎！感動した！

下りは、スキーレッスンの滑り方を駆使しての下山となりました。まだまだ、滑る？でわなく、横滑り状態です。狭い木の間をぬって滑る緊張感は、超ドキドキでした。下山時間もスノーシューグループと変わりなかったです。パウダースノーの中を滑り過ぎる～！と、贅沢を言いながらの楽しい山行でした。

早く横滑りスキーを卒業出来る様にレッスンに励みたいと思います。次は何処かなと早くも、気持ちは次の山行へと向かっています。

文責・ヘッポコの菅野靖司



いわきの気になる山（13）

高倉山（295m）

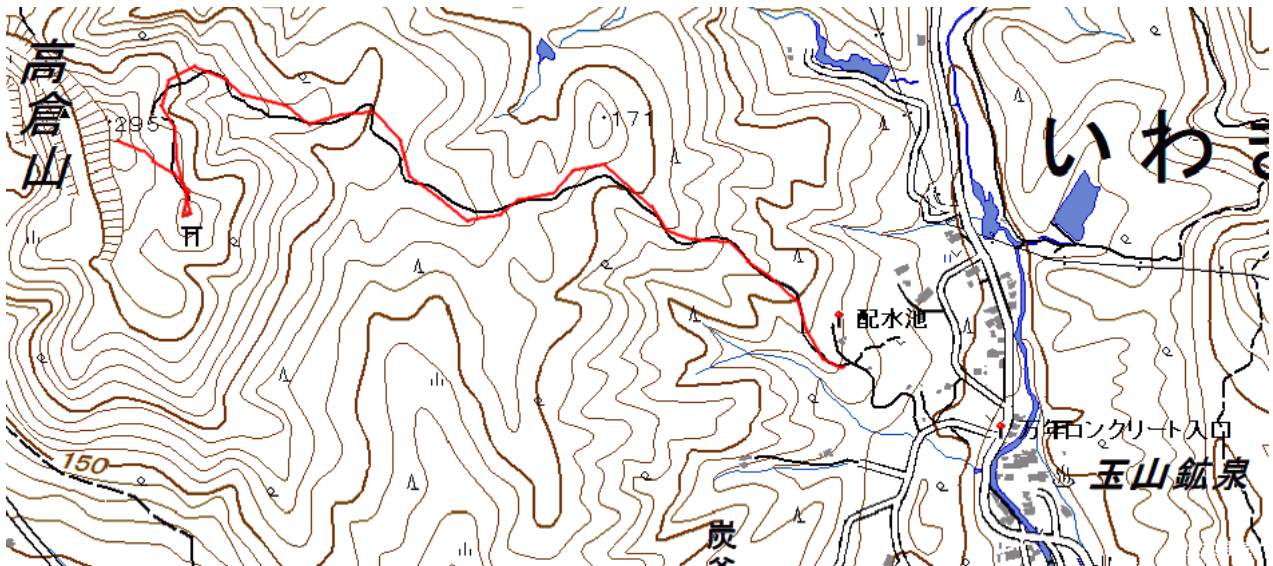
2019年1月21日

秋葉信夫、

高倉山はいわき市四倉町の松茸狩りで有名な玉山鉱泉の西に位置しており、山の西側は採石場になっています。

玉山鉱泉の富士屋旅館を過ぎ、福島県自然保護林の看板があるところから左側の採石場への道に入る。すぐに鳥居と狛犬がある

のでそちらの方へ行く。まもなく水道配水池があり舗装が終わる。ここから歩きはじめる。2kmほど行くと林道終点となり高倉山古峯神社の社殿建っている。山頂へは藪を漕いで行くが、山頂表示も三角点もない。木々の間から三森山や水石山、太平洋を望むことができる。



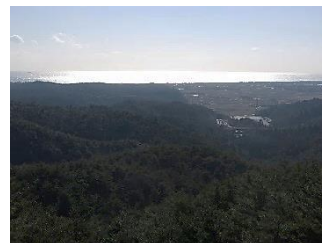
いわきの気になる山（14）

勝賀岩（160m）と宗賀岩（190m）

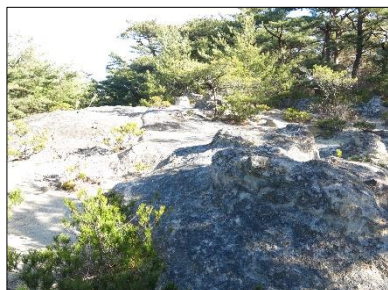
2019年1月21、22日

秋葉信夫

勝賀岩の名前は、寛永3年名僧勝賀和尚が焼失した金光寺本堂再建のため、白岩の砂岩洞窟にこもり座禅托鉢をいたと言われることに由来する。松茸の産地として名高い玉山・白岩地区にある。白亜紀双葉層郡玉山層の砂岩の山で、奇岩が塙立する山頂からは太平洋が一望できる。



ワンダーファームコース



常磐道四倉IC近くのワンダーファームから常磐道のトンネルをくぐると舗装が切れる。そのまま進みワンダーランド、貯水池を過ぎると道が二股になるので車をここに置き林道歩くと、岩の頂に出る標高約160mの勝

賀岩。藪気味の尾根を辿り、標高190mの三角点のあるところが宗賀岩。勝賀岩まで約45分、そこから宗賀岩まで約15分。

白岩コース

いわき浪江線（県道35号線）を常磐道の下をくぐると間もなく作業道の入口がある。ここに車を停めて歩き始める。白岩川を渡渉し作業道を忠実に辿り約40分で勝賀岩に着く。

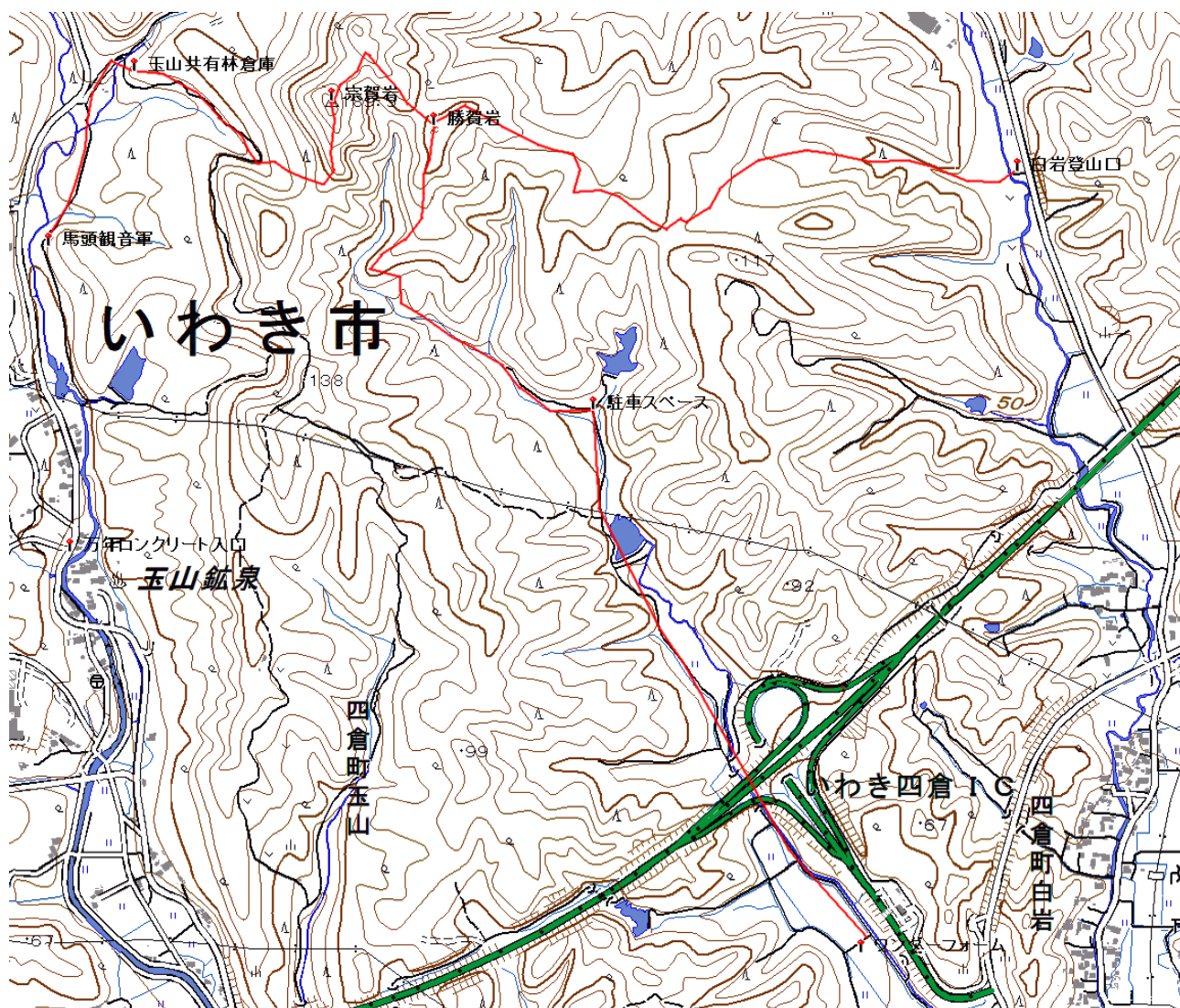


玉山コース



玉山鉱泉を過ぎ旧八茎鉱山に向かっていくと右側に玉山共有林の貨車を改造した倉庫のある広場がある。ここから作業道を辿り、途中から藪をかき分け宗賀岩への尾根に取りつく。約30分。

広場から南への作業道を行くと岩の切通があり、馬頭観音群を見ることができる。



奥久慈男体山（653.8m）を登って！

2019年1月13日（日）

鈴木 幸枝

石城山岳会登山教室に入り、教室では4回目の山行参加となりました。今回は奥久慈男体山の健脚コースで、岩場や鎖場があり、かなり険しいとの事。その上、雪や凍結の可能性もあるためアイゼンの用意をするように言われ、体力や皆さんに迷惑をかけるのではとの不安を抱え参加しました。



当日は、予定通り合同庁舎を7:00出発。快晴で風もなく「良い登山日和だ」と気分が上がってきたところ、マイクロバスから男体山の岩肌が見え「ここを本当に登るの」と緊張と不安が一気に増大しました。大円地駐車場から9:00に歩き出し、9:15健脚コースから登山開始。最初の急登で息が上がりながら、9:40最初の分岐部で小休憩。今は登るのに精いっぱい、回りの景色を見る余裕もなく「さあこれから本番！」と気合をいれて岩場、鎖場へ。目の前の岩に必死

にしがみつ、木の枝や根っこにつかまりながら、どうにかこうにかよじ登って 10:00 展望台で休憩。展望台からの景色は、空の青さと里山の風景が素晴らしく、ようやく回りを見る余裕ができました。しかし、ここからまた岩場、鎖場が続き、四苦八苦、前の人の登りを見ながら足の踏み場をどこに置いたらいいか考え、鎖につかまりながら登っていきました。10:43 東屋で最後の休憩。

もうひと踏ん張り、また鎖場を登り 10:55 男体山山頂到着。「やっと着いたー！」山頂からの眺めは絶景で、登れた達成感もあり感無量でした。頂上のお社に無事登頂のお礼参拝をして 11:30 まで一等三角点付近で昼食、今日の昼食は特に美味しく感じました。11:30 アイゼン装着の練習。今回は雪や凍結もなくアイゼンを使用する機会はありませんでしたが、手袋をしてスムーズに装着できるよう練習が必要だと思いました。



11:45 一般コースより下山開始。山頂を眺め、登った達成感にひたりながら下ったところで、スカイツリーと同じ標高との看板がありました。下りは鎖場もなく穏やかで、登りとは違い景色を眺める余裕がありました。12:20 奥久慈自然休養林の広場でツェルトの講習。この薄い 1 枚で生死が分かれると聞き、実際入ってみて暖かいのに驚き、なるほどと実感しました。12:40 大円地駐車場に向けて下山。森林や里山の風景を楽しみながら 13:30 大円地駐車場に到着。

初めて教室の皆さんと足並みをそろえ、予定時間内に行動することができました。これも教室の皆さんや先生達のおかげと感謝しています。まだまだ付いていくのが精いっぱいですが、体力をつけ今回のようなスリリングな岩山など楽しみたいと思いました。

※月折温泉滝見の湯で入浴し、豊田リンゴ園では大好物のアップルパイも購入でき、本当に楽しい山行でした！

〈コースタイム〉

合同庁舎 7:00→大円地駐車場 9:00→健脚コース入口 9:15→展望台 10:00→東屋 10:43→男体山山頂 10:55→昼食 11:00→下山開始 11:45→奥久慈自然休養林広場 12:20→大円地駐車場 13:30→入浴 14:10→ 合同庁舎 17:00



白 猪 森 (714m)・ 口 太 山 (843m)

(二本松市東和町)

平成31年1月24日(木) 曇り

参加者 秋葉信夫 渡辺敏夫 馬場和男

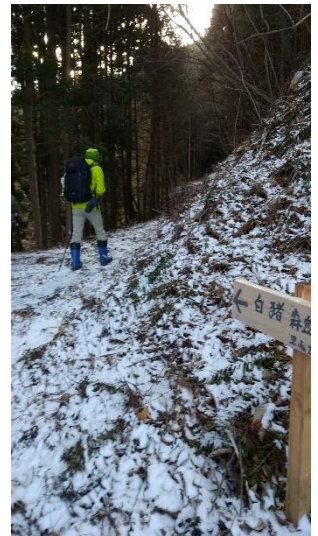
西由紀江 志尾崎裕子

いわきを7時に出発。国道349号を川俣方面に向かう。東和支所から右折。口太山キャンプ場登り口にクルマを止め、歩いて白猪森登山口へ。8時50分林道登山口手作り看板を頼りに登山開始。地元の人と犬の散歩の足跡をたどる。ニーニーとなくヤマガラの声とともに、杉山の落ちた杉葉に引っ掛かりながら雪の登山道をミシミシ少し登ると分岐、表示のとおりに分岐を3回曲



がると頂上への登り口。手作り表示はありがたい。ヒノキ林急登、滑りながらしばらくのぼると頂上に9時30分到着、白猪森の表示。今年の干支イノシシの年で1年の幸せを願う。珈琲を飲みながら一休み。カラマツ林で展望はきかないが、空を見上げると木々の間から青空が見えた。

下りは滑りやすかったが30分かからず下山。車に戻り、今度は「口太山登山道入り口」の看板から東に入り約3キロ先にある夏無沼キャンプ場へ移動。夏無沼の広い駐車場に駐車。屋根のある場所でお茶の時間にする。ふぐ餅がおいしかった。



10時50分口太山西口登山口から登山開始。頂上まで2.5キロの表示あり。最初から急登。雪道ですべる、すべる。緩やかになった所はアカマツ林。

夫婦松からは周りの山々がきれいに見えた。移ヶ岳、日山などなど。11時18分頂上到達。荒れた天気には展望が聞かず、安達太良山も雲の中。山座同定盤から雪を払う。すぐ眼前には旗まつりで有名な木幡山が見えるだけ。寒すぎるので急ぎ下山。急坂は南口と西口の分岐から、歩きやすいまきみちをおりた。11時42分下山口到着、駐車場に戻った。

帰りは道の駅を二つはしご、昼食・買い物を楽しむ。その後「杉沢の大杉」に立ち寄る。幹回りが22m、高さは50m。あまりの大きさ



に驚くが、強風で寒すぎて早々に退散。いわきへ帰る。それから水石山の山頂に移動、いわきの街を望む。強風の中、七峰縦走に思いをはせる。新春第1回の木曜デザートクラブは、干支の山を含む3つの山を歩く、ぜいたくな山歩きとなった。

(文責 志尾崎)

白猪森、口太山 軌跡



第 13 回 いわき七峰縦走に参加して

小林 憲兒

一昨年の七峰縦走 健脚コースに初参加しヘロヘロでゴール。

昨年は、天狗山を過ぎたところで転倒し、左腕を骨折。救急車で病院に搬送される始末。皆様にお世話になりました。今回は、そのリベンジで健脚コースにエントリーしました。

昨年は田代から天狗山の途中で、コース間違いでロスしましたが、今回はなし。ところどころに紅葉が残っていて、キレイです。キツイ登りをクリアして 8:23 天狗山到着。

三大明神山を過ぎて、二つ石山の登りで、はやくも両足の大腿四頭筋がつりそうになりましたが、サプリメントチャージでなんとか。

中間地点の水石山トンネルのチェックポイントに 10:30 頃到着、20min の休憩で切り上げ、関伽井嶽に向けて出発しました。ここまでの疲労度が初参加時と全然違います。毎月山に行っている成果が出てきたのでしょうか。

成沢の溪流沿いも紅葉がありキレイでした。関伽井嶽と水石山の分岐に到着。ここでリュックをデポして 12:08 関伽井嶽到着。分岐から山頂までは予想以上に距離がありました。ただ、下りは荷物もないのではやいはい。

チェックポイントでゆず湯を頂き、水石山を目指します。13:00 に水石山到着。これまでの山とは異なり広々とした草原で雄大な景色です。時々行くニッ箭山や太平洋も望めました。

ここまでくれば、ゴールはもう少し。剣ヶ峰に 13:35 到着。秋葉さんに記念写真を撮って頂き、ゴールを目指します。難所の急坂「玉ころがし」、「小玉ころがし」、転がると大変なことになりますが、今年足元も乾いていたので無事クリアし、14:10 無事ゴール。7時間 10 分でリベンジ達成できました。

コース整備を含めてお世話頂きました皆様、ありがとうございました。甘酒おいしかったです。来年は、スタッフで参加します。



三大明神山・ニツ石山・鶴石山縦走

2019年1月20日（日） 芳賀、太

いわき七峰縦走Aコース（湯の岳駐車場→湯の岳→天狗山→三大明神山→ニツ石山→水石トンネル）の後半部分を歩いてみたいとなり、三大明神山・水石トンネル間をピストンすることとなった。

午前7時過ぎに水石トンネル平側駐車場（いわき七峰縦走Aコースのゴール）に集合し、舗装道路が続く好間川細戸橋・ニツ石山登山口間は車で移動することとし、林道ゲート近くまで乗り入れた。

車を降り林道を右に入る。最初は沢に沿って、次は沢斜面中腹の林を進み、尾根道になると林の中の笹原を登るようになる。前月開催のいわき七峰縦走コースとして整備された登山道は、小枝や落ち葉が堆積しているものの、概ね良好な状態を維持し、登るに苦労はない。

1時間弱でニツ石山。頂上は落葉のせいで明るい広場になっていたが眺望はきかない。休憩もそこに登山道から林道へ出て三大明神山に向かう。山頂付近にある大きなアンテナ塔を目指して林道を登っていく。三大明神山の山頂広場もニツ石山と同じく眺望はない。少しの休憩の後、引き返す。

ニツ石山に戻ると、まだ午前10時少し前なので、鶴石山まで行くことになった。いわき七峰縦走では通行止めにしていたが、明るい林の中、笹原の踏み後をたどるルート。アップダウンもきつくない、爽やかなコース。風況調査の鉄塔を過ぎて、しばらく行くと、植林された若木の尾根を通る箇所があり、そこから正面に水石山、閼伽井岳が見える。ここ以外は全て林の中で見晴らしはない。ルート脇に笹を刈って赤テープで縄張りした場所が2か所ほどあったが、新たな風況調査の鉄塔予定地だろうか。軽快に進んでいくと、突然林道に出て、県の防災無線の中継局アンテナが見えるようになる。その下が鶴石山の山頂。三角点はあるが、山名を示す標柱やプレートはない。眺望は木々を透かして、遠野町、三和町の風景が少し見える。山頂周辺は牧場跡だ。

鶴石山の山頂から引き返し、また1時間少しで、ニツ石山。この日3度目のニツ石山山頂。石に腰を下ろして行動食を取る。しばしの休憩後、登山口まで下りた。

コースタイム

7:30ニツ石山登山口→8:30ニツ石山→9:15三大明神山→ニツ石山
→11:00鶴石山→12:20ニツ石山→13:00ニツ石山登山口

（文責：太）





「吾妻山神社」

2018年12月3日(月)

山名 中吾妻山

参加者 秋葉、渡邊(敏)、栗崎(透)、栗崎(容) 計4名

吾妻山神社は、吾妻連峰の中吾妻山の西斜面中腹・・・というか裾でしょうか、にある神社です。

5,6年前にその存在を知ってから、いつか行ってみたいと思っていました。

今回秋葉さんからの提案を受け、長年の思いが叶う山行となりました。

たぶん初めての「山頂を目指さない山行」でもあり、その意味でも楽しみにでかけました。



今回の吾妻山神社登山口へのルートは、磐梯吾妻レークラインがすでに冬季閉鎖になっていたので、金堀集落から林道を進んでゆくルート。通常、長い林道歩きを強いられるようなのですが、この日はゲートが開いていて、登山口まで車で進むことができ、約片道1時間の林道歩きを短縮できました。

8:52 吾妻山神社登山口のすぐ近くに駐車、出発。すぐに姥明神「穩姿菩薩」が現れます。

さらに進み唐松川を渡渉すると、今度はしめ縄が巻かれ大きなミズナラの御神木が。

木の根元には錆びかけた剣が2本置かれてありました。初っ端から「ここは修験の山なんだなぁ」と感じさせられます。御神木を過ぎると、いきなり急登が始まり、気温が低いにもかかわらず汗をかかれます。やっと急登が終わると、ミズナラとカラマツ混じりの、気持ちのいい落ち葉の斜面。

この辺りから、足元の雪が繋がるようになってきました。

9:44 H1,200m～1,270m辺りの2度目の急登です。そして急登が終わり道がなだらかになると積雪がさらに増え、熊のモノらしき大きな足跡が。そして進むにつれてどんどん積雪が多くなります。積雪は想定内で、軽アイゼンも一応持っては来たのですが、冷足対策までは考えが及ばず、足が冷えてきます。この辺りから正に「山頂を目指さない山行」らしく「中吾妻山の南西斜面から北西斜面をトラバース」となります。トラバースとは言え、水平移動よりもかなりアップダウンのあるトラバース。左足下がりの西斜面は気を抜くとそのままスルスルと滑落しそうな箇所もけっこうあり、どんどん増えてきた積雪も手伝って、なかなか気の抜けない登山道でした。

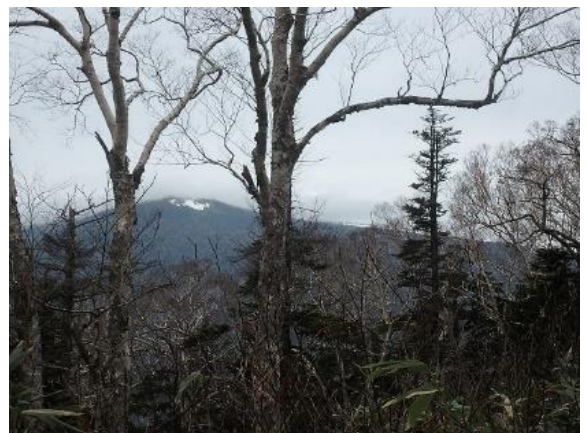
10:55 トラバース道の西側の木々の間から、西吾妻山とさらに中大テン、藤十郎辺りでしょうか、吾妻の縦走路の山々も見えてきました。吾妻の兄弟たちの顔見せは、ほとんど展望がなかった歩きに陽が射したような気持ちにさせてくれ、なんだか元気が湧いてきました。

11:22 かつてあった集落「議場」への方向を教える古い道標や、「ヤケノママ」への道標などを見て

11:35 雪の中寒そうに「奥姥神」の姥様の石像。「な

かなか着かないなぁ」と思っている所に激下り!という岩と雪のミックスのトラバース下りを「一体どこまで下ろされるの??」と思うほど下って行くと

12:00 さらに下方から秋葉さんと栗崎の「着いたよ～」の聲が かすかに聞こえ、その2、3分後、かすかな硫黄の香りと共に見えた大岩。吾妻山神社到着です!



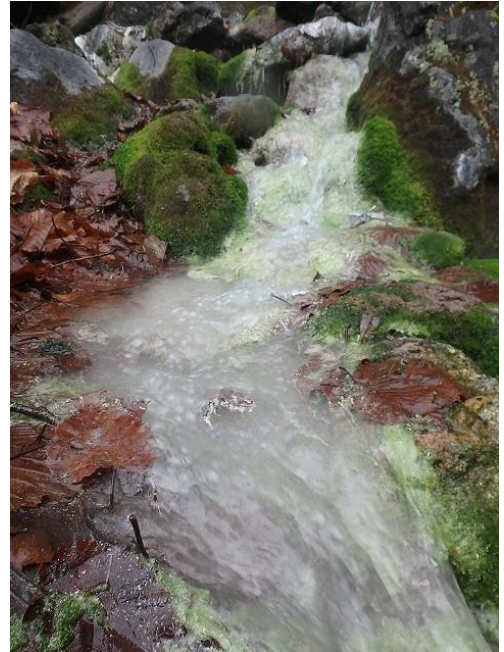


お社はなく、しめ縄を回した御神体の大岩が奥に鎮座。これが東北総鎮守である吾妻山神社！

チョット拍子抜けのような気もする反面、逆にこれが修験のあるべき姿なのかも、と思ったりしました。先着の二人に「神社の後ろに温泉が湧き出てるよ」と教えられ、ご神体の裏にまわると、ご神体の大岩のすぐ後ろから温泉がこんこんと湧き出ています！ ここまでけっこうあった



積雪が神社に着いたとたん少なくなったのは、この温泉の温かさのせいでした。すっかり冷え切った手や足を温泉の湯に浸して暖を取ります。



ここで40分ほど休憩＆ランチタイム。周りには少しの積雪もあり、しかも曇天で気温は低いのですが、温泉のおかげで温かく休憩が取れました。

12:40 来た道を帰ります。途中から陽が射し始め、西吾妻山や西ダイテン、往路では見えなかった飯豊山の姿も望むことができました。

15:20 毎年手を入れて整備してくれている皆さんに感謝して、登山口に帰着。

なかなか楽しい山行でした。

そうそう、中吾妻山と東吾妻山の間辺りにH1,786mの小山があり、その山頂に「駕籠山稻荷神社」という神社があるようなので、そちらにもいつか行ってみたいです。

(文責 栗崎 容子)

☆ 拙いブログですが、今回の山行のレポートもアップしています。
良かったら覗いてみてください。

念願の吾妻山神社へ！

<https://blogs.yahoo.co.jp/cordonjpfs/64739955.html>

高曽根山スノーシューハイク

2019年1月14日(月) 晴れのち曇り一時雪

スノーシューメンバー：柏村、菊地、佐藤(裕)、渋谷、星(奈)、星(昭)

スキー組との合同イベントで積雪期にしか登れない高曽根山に行ってきました。
最大の目的はブナ太郎に会うこと！ということで、無風快晴の下スタートしました。



スキー組と協力しながら道を作っていきます。
しばらく平坦なところを歩いていたので、みんな
余裕綽々(笑)
お喋りに花が咲きスノーシューデビューの
メンバーさんも楽しく歩いていました。

しかし楽しい平坦な道が、いつまでも続くはずもなく
いよいよ登りが始まります。
青空の深い青と雪の白のコントラストは最高です！
キレイな景色からパワーを貰いながら高度を
稼いでいきます。



交代で先頭を
歩いたりして
ルーファイの
勉強もしまし
た。
途中で楽しみ
のひとつモグモグタイム！
柏村さん、菊地さん、えりさん、ごちそうさまでした。



1300m地点まで急登を頑張って登りました。そこから急斜面を150m程下ります。
ああ！せっかく登ったのにもったいない(笑)



急斜面を下り切ると目前に立派な
ブナの木が！
みんなから歓声が上がります。

女性陣をモデルに撮影しましたが
ブナがデカ過ぎて入りきりません。
ここまで立派だと神々しささえ
感じます。

この頃になると青空から曇り空に変わり
雪がちらついてきました。
菅野さんが作ってくれた雪のテーブルで
お待ちかねのランチタイム。

お腹を満たして先ほど下った急斜面を
登り返します。
何とか全員登り返し終了！あとは、
来た道をのんびり下るだけです。
スノーシュー組もスキー組も思い思いに
歩いたり滑ったりして無事下山しました。

行動時間は約 6 時間でした。
みなさん、おつかれさまでした。

(文責：星 昭宏)



「背戸峨廊と猿峨廊」

2018 年 12 月 18 日(火)

参加者 秋葉、渡辺(敏)、馬場、芳賀、栗崎(透)、栗崎(容)

いわきを十何年かぶりに背戸峨廊を歩いた。
最後の滝、三連滝(みれんたき)の奥に猿峨廊があることを教えてもらう。猿しか行かない秘境の溪とい
うことらしい。

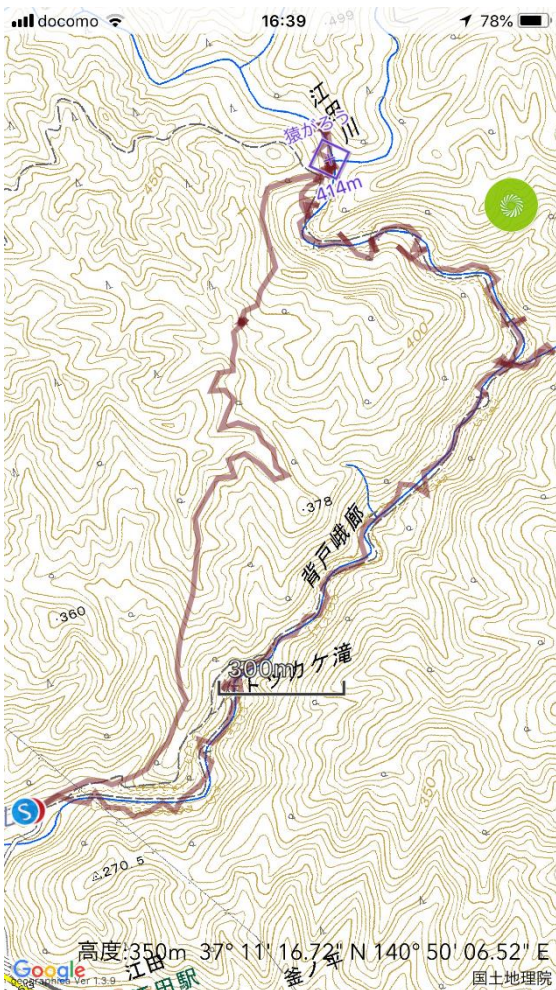


8時10分ごろに歩き始める。
 今日の足回りはみんな長靴。浅い沢ならジャブジャブ行ける。
 廻り淵、トッカケの滝、釜ん淵、不動滝と次々とあらわれる滝に
 記憶がよみがえってくる。
 夏の沢登りのコースどりなどを教えてもらいながら進む。
 夏に沢装備で歩くのも面白そうだ。

片鞍滝の先の二俣で、登山道がない右俣の先に滝があるらしく行ってみるが、沢にガレや倒木が多く途中で諦め引き返す。
 遅れて出発した渡邊さんがここで合流。一本とる。
 体調不良で急遽取りやめた志尾崎女史の差し入れを皆でいただく。



この先も龍門滝、黒鍋の淵、龍の寝床、
 心字の滝、鹿の子滝、見返り滝を経て
 三連滝を高巻きすると、猿峨廊への急
 降下。
 ここに、猿峨廊の看板を取り付け、急
 降下の登山道にトラロープを取り付



けながら下る。
 取り付け後、猿峨廊に降り立ち、静かな滑沢を眺めながら
 昼食を取る。我々以外に誰も
 いない。
 猿もない。
 12:40 沢を離れ登山道に戻り、途中、引き上げシステムのロープワークの練習。秋葉、
 渡邊、馬場の三氏に教えを請う。
 14:50 ごろ駐車場に帰着。



夏の沢歩きや紅葉の頃にも行ってみたい、いわきが誇れる
 背戸峨廊。

(文責 栗崎 透)

